

第4学年 体育科学習指導案

指導者 呉市立広南小学校 伊形 知夏 (T1)

米田 和雄 (T2)

1 日 時 平成26年10月3日 (金) 2校時

2 学 年 第4学年1組 男子10名 女子12名 計22名

3 単元名 「目指せ!しなやかからだ!」 (A 体づくり運動, イ 多様な動きをつくる運動)

4 単元について

〈運動の内容〉

○ 体づくり運動は、心と体の関係に気付くこと、体の調子を整えること、仲間と交流することなどの体ほぐしをしたり、体力を高めたりするために行われる運動である。

多様な動きをつくる運動の際、児童が体ほぐしや多様な動きをつくる運動の必要性を感じ取り、その基礎的・基本的な内容を身に付けることができるようにする。また、きまりを守り、仲間と励まし合って運動したり、用具の安全を確かめたりしながら運動を行っていく。

○ 多様な動きをつくる運動では、よい動きを見合ったり、教え合ったりする活動を工夫しながら、楽しく活発に運動する中で基本的な動きを身に付けることができるようにすることが重要である。

○ 多様な動きをつくる運動は、体のバランスをとったり、移動をしたりする動きや、用具を操作したり力試しをしたりする動きを意図的に育む運動を通して、体の基本的な動きを総合的に身に付けるとともに、それらを組み合わせた動きを身に付けることをねらいとして行う運動である。

また、将来の体力の向上につなげていくためには、この時期にさまざまな体の基本的な動きを培っておくことが重要である。

〈児童の実態〉

【態度】

本学級の児童は、体ほぐしの運動を通して、男女関係なくペアをつくり、楽しく活動することができる。さらに、体ほぐしの運動をきっかけに、仲間を大切にしたり、授業中、落ち着いて学習したりすることもできるようになった。

また、道具の準備・片付けについては、多くの児童が積極的に行うことができる。しかし、周りを見て行動する力が不十分であるため、そこからトラブルにつながることもある。

【思考・判断】

基本的な動きを組み合わせ、リレーを行った際は、仲間を応援しながら運動を楽しむ姿が見られた。また、自分の苦手な運動を選んで練習する際は、得意な児童が、動き方などを一生懸命教える様子も見られた。仲間とのかかわり合いの中で「すごいな。」と思う動きを見つけて、まねをする姿も見られた。

【運動】

リズムによって体を動かすことは好きな児童が多い。また、休憩時には、サッカーボールやGボールを使って遊ぶ児童もおり、上手く用具を操作できている。しかし、決まった運動にとどまっており、体のいろいろな部分を使った運動をするなどの動き方の広がりは見られにくい。

<指導に当たって>「わかる・できる・かかわり合う」体育学習

【知識・わかる】

- ボールを使ったり，体を移動させたりするなどの身近な運動を積み重ねることが，体力の向上につながることを理解させる。
- 児童がよく使用するボールやフラフープなどに加え，生活の中で使用する新聞紙やわりばしなどでも運動することができることを体験から理解させる。

【運動・できる】

- 一つの動きについて，「進んだ動き」「さらに進んだ動き」を明確に設定し，新しい動きが獲得できるようにする。
- 多くの用具を一度に用いるのではなく，身近な用具を使ったシンプルな場づくりから，中心となる運動に向かえるようにする。
- 簡単に誰にでも取り組める運動からスタートすることで，楽しく，前向きに動きを獲得できるようにする。

【態度・身に付く】

- 易しい運動に出会い，伸び伸びと体を動かす楽しさや心地よさを味わわせる。
- ペアやグループの構成を工夫し，友だちとのかかわりをもたせることで，きまりを守ったり，友だちと励まし合って運動したりする大切さを感じさせる。
- 自分たちで新しい運動を考えることを通して，必要な道具は何か，安全に活動するにはどうすればよいかを考えて活動できるようにさせる。

【思考・判断】

- 基本的な動きを組み合わせる運動を考え，身に付けさせる。そのために，基本的な動きを本時までにつかませる。そして，もっとグラグラ感やドキドキ感を味わうためにはどうすればよいかを考えさせ，「人数」「方向」「速さ」「回数」「用具」などの視点に注目させる。
- 友だちの動きを観察する視点を示し，自分の動きに取り入れることができる時間を確保する。

言語活動の充実

- 「もっとドキドキ感を味わうためにはどうすればよいか。」などと，できる・できないの狭間で楽しめるようなめあてを提示することで，できるようになったり，感覚を味わったりするための必要感のある話合いにつなげていく。

5 「思考・判断の系統性」について

- 低学年…体づくりのための簡単な運動の行い方を工夫できるようにする。
- 中学年…体づくりのための運動の行い方を工夫できるようにする。
- 高学年…自己の体の状態や体力に応じて，運動の行い方を工夫できるようにする。

6 研究仮説とのかかわり

① 課題解決的な学びの保障

単元の第1時～第4時までは，体のバランスをとる運動や体を移動する運動など，様々な動きを経験することで，動きの習得を目指す。そして，第5時からは「用具を操作する運動」「体を移動する運動」「体のバランスをとる運動」など，これまでの学びを生かして，活用段階に入る。活用段階では，児童自身が動きをつくるため，「(1)わりばしを操作すること」「(2)体を移動する動き」「(3)

体のバランスをとる動き」など、視点を明確にし、動きを順に増すことを教師が具体的に示す。そうすることで、児童が思考を整理しながら、課題を解決できるようにする。その際、「よりドキドキ感を味わうためには、どの用具を使って、人数をどうすればいいかな。」と問いかけることで、課題を解決しようとするねらいをはっきりもって学ぶことができる。第6時では、第5時での経験を活かして、自分たちで動きを選んで組み合わせ、新しい動きをつくっていく。それらの経験から、単元を通して、体の基本的な動きを総合的に身に付けたり、動きの組み合わせ方を選んだりすることができるような自ら学ぶ授業が展開される。

② 場の工夫

本時では、上記「(3) 体のバランスをとる動き」につなげるために、「(2) 体を移動する動き」として、跳び箱を上ったり、丸めたマットの上でバランスをとったりする場づくりを行う。そこでは、不安定感を出したり、高低や左右に動いたりする場をつくることで、ドキドキ感を味わったり、大きな動きにつなげることができる。その際、チーム対抗のリレーを取り入れることで、運動量も確保する。また、本時では「わりばし」「たこひご」「乾電池」を使用するが、それらの「長さ」「重さ」「しなやかさ」や、人数に着目させて、動きを組み合わせる。「落とさずに、バランスをとりながら移動するというドキドキ感を味わうには？」というねらいに迫るために、用具や人数を変えて試したり、試したことを基に考えたりして、考えて動き、動いて考える学びの場を大切にする。

③ 教師のかかわり

これまでに身に付けた動きを基に発展的な動きを工夫する活動を仕組もうと考えている。そのため、「とても工夫していていいね。もっと～したらよくなるね。」などと、肯定的な評価をしながら、ねらいにあった動きに修正するための言葉かけも行う。また、グループで動きを交流する際は、「どこに気を付けたら上手くできそう？」「上手くいったポイントは何？」と問いかけ、個に応じた動きのコツを引き出していく。新しい動きをなかなかつくることのできない児童には、「人数を変えるとどうなるかな？」などと、視点を与えて考えさせるようにする。

7 単元の目標

- 体のバランスや移動、用具の操作などとともに、それらを組み合わせることができるようにする。 【運動】
- 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 【態度】
- 体づくりのための運動の行い方を工夫できるようにする。 【思考・判断】

8 単元の評価規準

ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能
① 体づくり運動に進んで取り組みもっている。 ② 用具の使い方や運動の行い方のきまりを守り、友だちと励まし合って運動しようとしている。 ③ 運動する場や、用具の使い方などの安全を確かめようとしている。	① 多様な動きをつくる運動の行い方を知るとともに、友だちのよい動きを見付け、自分の運動に取り入れたり、動きの組み合わせ方を選んだりしている。	① 体のバランスや移動、用具の操作、力試しの動きとともに、それらを組み合わせた動きができる。

9 指導計画 (全6時間 本時 5/6)

時間		1	2	3	4	5 (本時)	6
準備の運動		4-1 コール, ペアストレッチ, 身体感覚育て【素早く】ゴロゴロダッシュ					
課題の追究		<p>グラグラする感じを楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ バランス名人コース <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで背中合わせ ・クルクル展望台 (ペア) ・向かい合って立ち上がれ ・だるまさん片足ストップ ○ 力試し名人コース <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールに仲間を乗せて運ぼう。 	<p>ぐっと力が入る感じを楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ぴょんぴょん名人コース <ul style="list-style-type: none"> ・円であんたがたどこさ ・列であんたがたどこさ ○ 全身で歩くぞ名人コース <ul style="list-style-type: none"> ・アザラシ歩き ・クモ歩き ・おしり歩き ・かに歩き ○ 人間進化じゃんけんゲーム <p>アザラシ→ハイハイ→動物歩き→人間</p> →じゃんけんをして勝ったら一つ進化する。負けたら一つ戻らないといけない。人間になった人は座る。 	<p>とれるかとれないかのギリギリを楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ボール使い名人コース <ul style="list-style-type: none"> ・ボールキャッチ (投げている間に自分で考えた動きを入れる) ・前後左右ギリギリキャッチ ・お手玉キャッチ ・4人で移動キャッチ 	<p>人の重みを感じよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 引っばる名人コース <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの体のいろいろな部位を引っ張り移動させる。 ○ かつぞ名人コース <ul style="list-style-type: none"> ・一番重く感じるおんぶ ・一番軽く感じるおんぶの仕方を見つけよう! ○ 支える名人コース <ul style="list-style-type: none"> ・ギコンバタンゲーム ・ハイ!バタンゲーム 	<p>落ちるか落ちないかのドキドキ感が大きくなる動きをつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 落とさず運ぶぞ名人コース <ul style="list-style-type: none"> 用具の操作 【わりばしでつながる】 用具の操作+体の移動 【わりばしでつながったまま移動する】 用具の操作+体のバランスをとる。 【わりばしでつながったまま、縄の上を渡る】 もっとドキドキ感を感じるために、人数や用具を工夫する。 自分たちのつくった動きを交流し、体験する。 	<p>みんなで、広南アスレチックをつくって、体験しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広南アスレチックに取り入れたい動きを決める。 ○ それぞれのグループで考えた動きをみんなでやってみる。
		まとめと振り返り, 後片付けとクールダウン					
評価規準		<p>ア① 体づくり運動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>ア② 用具の使い方や運動の行い方のきまりを守り、友だちと励まし合って運動しようとしている。</p>	<p>ア③ 運動する場や、用具の使い方などの安全を確かめようとしている。</p>	<p>ウ① 体のバランスや移動、用具の操作、力試しの動きとともに、それらを組み合わせた動きができる。</p>	<p>ウ① 体のバランスや移動、用具の操作、力試しの動きとともに、それらを組み合わせた動きができる。</p>	<p>イ① 多様な動きをつくる運動の行い方を知るとともに、友だちのよい動きを見つけ、自分の運動に取り入れ、動きの組み合わせ方を選んだりしている。</p>	<p>イ① 多様な動きをつくる運動の行い方を知るとともに、友だちのよい動きを見つけ、自分の運動に取り入れ、動きの組み合わせ方を選んだりしている。</p>
評価	態	観察	観察				
	思					学習カード	学習カード
	技			観察	観察		

10 本時の学習（5／6時間）

<p>本時の目標 いろいろな動きを組み合わせることで、体つくりのための運動の行い方を工夫できるようにする。</p>	<p>評価規準 人数や用具を変えながら、新しい動きの組み合わせ方を見付けている。（イ①）</p>
--	---

11 本時の展開

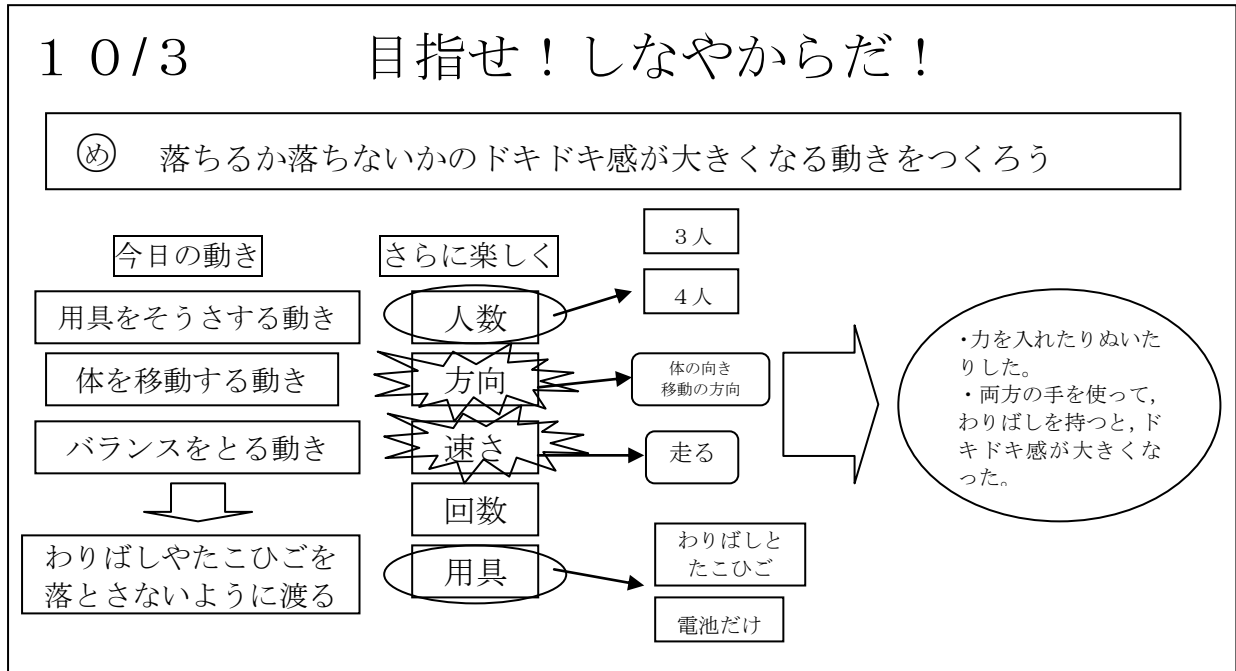
学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て）		評価規準〔観点〕 （評価方法）
	T1	T2	
<p>1 準備の運動 (1) グループストレッチ (2) 身体感覚育て【素早さ】 ・ゴロゴロダッシュ 2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>◇ 音楽をかけながらストレッチをすることで、リラックスさせる。</p>	<p>◇ 音楽をかける。</p>	
<p>落ちるか落ちないかのドキドキ感が大きくなる動きを見付けよう！</p>			
<p>3 課題の追究 (1) わりばしを操作する運動を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">わりばしでつながる。</div> (2) 用具を操作しながら、体を移動する運動を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">わりばしでつながったまま、移動する。</div> ・コーンをよけたり、跳び箱を上り下りしたり、丸めたマットの上でバランスをとったりする。 ・グラグラドキドキリレーをする。</p>	<p>◇ 人差し指と人差し指にわりばしを挟み、落ちないように動くように指示を出す。 ◇ 挟むだけでなく、わりばしが落ちないように動き方を考えさせる。 （ペアの相手の回りを回る。目をつむる。） ◇ 力の入れ方や二人の距離間など、どのようなところを工夫したか交流させる。 ◇ 進んだ動きとして「速さ」に注目させて、リレーを行う。</p>	<p>◇ ペアを回ってアドバイスをしたり、肯定的な声かけをしたりする。 ◆ 安全面で配慮の必要な児童には、声をかける。</p>	

<p>(3) 用具を操作しながら、バランスをとって渡る運動を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>わりばしでつながったまま、縄の上を渡る。</p> </div> <p>(4) もっとドキドキ感を感じるために、人数と用具を工夫する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>わりばしやたこひごを落とさないように、渡る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人数: 3人や4人 ・ 用具: わりばし たこひご 電池 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 20px;"> } <ul style="list-style-type: none"> ・ 速さ: 走る ・ 方向: 体の向き 移動の方向 </div> </div>	<p>◇ 人差し指の力を入れたり抜いたりするだけでなく、縄から落ちるか落ちないかのドキドキ感を感じさせる。</p> <p>◇ たこひごの使い方について、安全面の指導を行う。</p> <p>◇ もっとドキドキ感を味わえて、楽しくするためにはどうすればよいか、「人数」「用具」の視点を示して、動きを考えさせる。</p> <p>◇ 人差し指だけでなく、体の他の部分を使って棒を操作している場合は、しっかり評価し、紹介する。</p>	<p>◆ 動きが思いつかないグループには、人数や用具など、工夫する視点を伝える。</p> <p>◇ 新しい動きの組み合わせ方を見付けているかどうか、評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人数や用具を変ながら、新しい動きの組み合わせ方を見付けている。 〔イ①〕 (学習カード)
<p>(5) 自分たちのつくった動きを交流し、体験する。 (2グループごと)</p> <p>4 本時のまとめを行う。</p>	<p>◇ どのように工夫したら、ドキドキ感が大きくなったかを発表させる。</p>		
<p>わたしは人数を4人にして、たこひごを使いました。4人にすると、両手の指の力を考えないといけないので、とてもドキドキしました。でも、お互いの距離を変えないように声をかけると、最後まで落ちずに渡ることができました。</p>			
<p>5 本時を振り返り、次時につなげる。</p> <p>6 後片付けとクールダウン</p>			

1.2 準備物

ホワイトボード、音楽CD、学習カード、バインダー、わりばし、たこひご、電池、カラーコーン
跳び箱、マット、縄

1.3 板書計画



1.4 学習の場

